

本校の教育目標の実現に向けて ご理解とご協力をお願いいたします

学校では、毎年の教育活動を振り返るとともに、子どもの実態に照らしてどんな生徒を育てていくかを決めています。それが本校の教育目標です。

本校の教育目標は「志をもって自ら学び考え、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」です。

学校教育目標 志をもって自ら学び考え、心豊かにたくましく生きる生徒の育成

「志をもって自ら学び考え」とは

- 人生や社会を切り拓いていく力をつけるために、明確な目標をもち、主体的に意欲をもって学ぶ
- 自らの課題解決に向け、主体的に取り組む

「心豊かに」とは

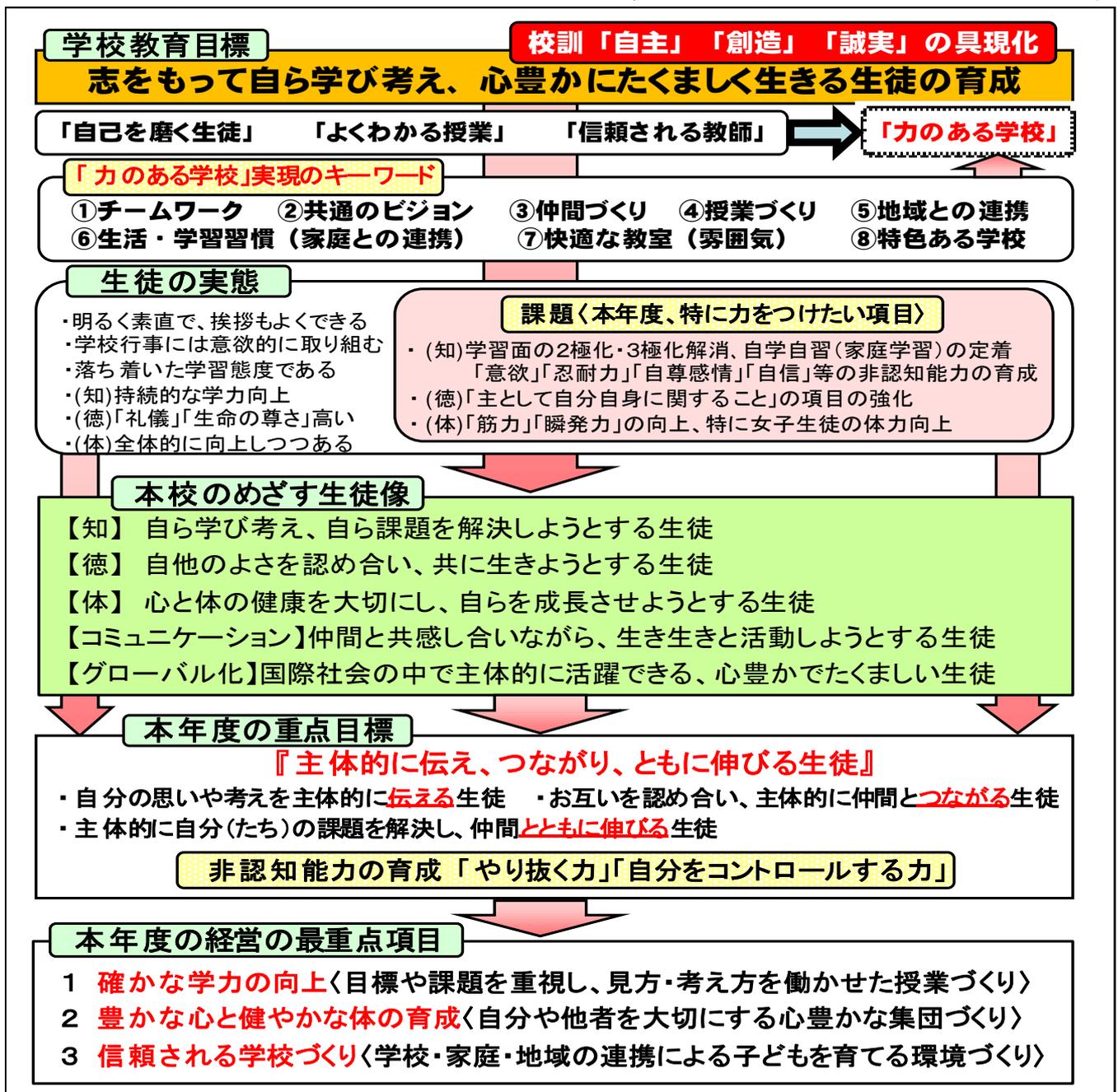
- 生命を大切にし、人権を尊重する心
- 自分を大切にするとともに、他人をも大切にすること
- 他人を思いやる心
- 互いに助け、支え合う心

「たくましく生きる」とは

- 基礎・基本の確実な定着
- 主体的な学びの定着
- 柔軟性と持続性のある体力
- 自主的・自立的な態度
- ねばり強くあきらめない心

また、本校の生徒たちの実態や本年度の重点目標等は、下の図に示した通りです。

いつの時代も「学校・保護者・地域が同じ目標に向けて進んでいく学校は、素晴らしい学校である」と言われています。どうぞ、ご家庭におかれましても、本校の教育目標等をご確認いただき、子どもたちのよりよき成長に向けてのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。





小郡市立小郡中学校

令和2年5月21日



小郡中学校だより

第98号

校長 船津 聡 哉



学校教育目標 ～ 志をもって自ら学び考え、心豊かにたくましく生きる生徒の育成 ～

なぜ偏見や差別が生じてしまうのか、どうすればなくすことができるのか

臨時休校が5月20日(水)で終了し、6月1日(月)からの一斉登校に向けて、少しずつ登校する日も多くなります。今後、変更があれば安心安全メール等でお知らせいたします。

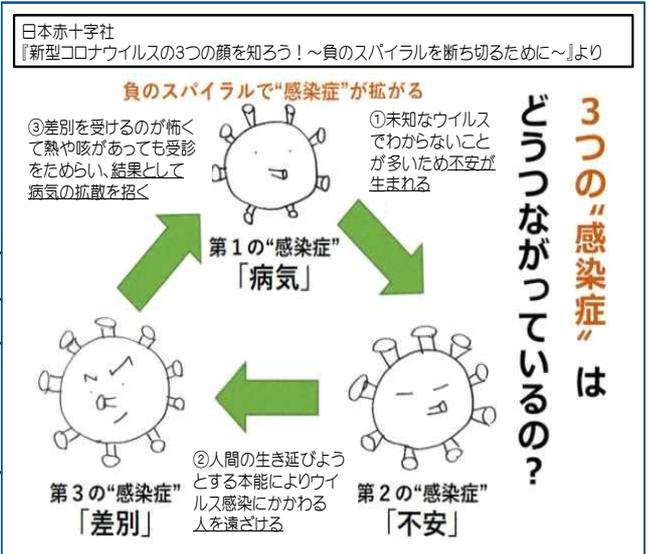
さて、小郡中学校では「自分や周りの人の人権について考え、よりよい生活を送るためには、どうすればよいのかを考える日」〈人権を考える日〉を定期的に設定し、人権学習を行っています。本来の予定では5月に実施する予定でしたが、このような状況で1時間確保しての人権学習を行うことが難しいので、今号では偏見や差別について少し考えたいと思います。

人間が営む生活において、あらゆる状況や場面で偏見や差別が生まれているといっても過言ではありません。2011年の東日本大震災による福島第1原発事故では、福島など東北の人々が「原発いじめ」や「風評被害」にさらされ、不当な中傷や差別を受ける苦しみを知る人は多いはずです。そして今、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、医療関係者やその家族、感染者やその近親者等が中傷、差別を受けていることが大きな問題となっており、ニュース等でも報じられています。リスクを負い、最前線で働く人たちの心を傷つける行為、感染者等への非難はマイナスでしかありません。今こそ、私たち一人一人の言動が問われているのです。

差別や偏見について、日本赤十字社は「負のスパイラルを断ち切るために」としてホームページに載せていますので、ぜひ一度は見ていただきたいと思います。その中で新型コロナウイルス感染症が怖いのは「3つの感染症」という顔があるからだとして分析しています。「3つの感染症」とは、病気という身体的感染症、不安や恐れという心理的感染症、嫌悪・偏見・差別という社会的感染症です。ここで注目したいのは、未知のウイルスが生む病気への不安や恐れから、本来の「敵」であるウイルスではなく、病気にかかわる人を直接的な嫌悪対象にして偏見や差別をして安心感を得るということです。そしてそれが症状を自覚しても受診をためらう人を生み、さらなる感染拡大につながる…。病気が不安をよび、不安が偏見・差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながるという、この負の連鎖が感染症がもつ怖さであり、社会全体の団結力や抵抗力も弱めてしまうということです。

では、偏見・差別をなくすためにはどうすればよいのでしょうか。新型コロナウイルス感染症は誰もが感染し得ることと、誰もが気づかないうちに他人に感染させてしまう可能性をもっている…だから冷静に感染症を正しく知って怖がり、「中傷や差別」ではなく、「支援や感謝、敬意」を抱いて、できることをしていくことではないでしょうか。日本赤十字社のホームページでも、確かな情報を広め、差別的な言動に同調せず、それぞれの立場でできることを行って負の連鎖を断ち切ろうと呼びかけています。

世の中には、社会的カテゴリー(性別、人種、年齢、出身地、職業など)によって、生じてしまう偏見や差別があります。現在では、インターネットによる人権侵害(デマ・偏見等の悪質



世の中には、社会的カテゴリー(性別、人種、年齢、出身地、職業など)によって、生じてしまう偏見や差別があります。現在では、インターネットによる人権侵害(デマ・偏見等の悪質

な投稿)も増え、偏見や差別が拡大されている状況もあります。してはいけないことだとわかっていながらも、なかなかなくならないのも事実です。私たちは、間違っている意識や行為(やその理由)を正しく見抜く力や態度を身につけていくことが必要ではないでしょうか。それが人と人とのつながりをつくり、皆が大切にされる社会の実現につながると考えています。

ぜひ、この機会に『なぜ偏見や差別が生じてしまうのか、どうすればなくすることができるのか』を考えてみてください。

悩みや困ったことがあったら ひとりで悩まず ぜひ相談してください

文部科学省の取組として、子どもたちや保護者等が全国どこからでも夜間・休日を含めて、いつでもいじめやその他のSOSをより簡単に相談することができるように「24時間子供SOSダイヤル〈0120-0-78310〉」(新型コロナウイルス感染症を理由としたいじめや偏見等に悩んだ場合の相談も可)を設置しています。また、福岡県教育庁北筑後教育事務所も「子どもホットライン24〈0942-32-3000〉」いつでもどんなことでも相談できる体制を整えています。

小郡中学校でも「相談ポスト」を設置していますので、どんな小さな悩みでもかまいませんので、遠慮なく「相談ポスト」を活用してください。その相談は、周りに知らせることは絶対にありませんし、責任もってお答えします。なお、「相談ポスト」と相談ポストに入れる「相談カード」(右図)は校長室の入口横に置いています。

悩みや困ったことがあったら『相談ポスト』へ
(どんな小さな悩みでもいいです)(あなたの秘密は守ります)

日常生活の中で、自分のことや友だちのことなどで悩みや困ったこと(いじめ)がある人は、下の相談カードに記入して『相談ポスト』に入れてください。
自分のことや友だちのことを相談することは、必ずしもいじめではありません。悩みや困ったことを相談することは、悩みや困ったことを解決し、新しい生活につながっていくからです。みんなが安全で安心して暮らせるために、どんな小さな悩みや困ったことでもいいので、遠慮なく『相談ポスト』を活用してください。

【お願い】
あなたにとっての悩みや困ったことを解決していくために、相談カードには学年・姓・名前を記入してください。
周りに知らせることは絶対にありませんし、責任もって校長先生が答えます。
一週間に一回は、『相談ポスト』の中を確認します。ちょっと書きが違ったりすることもあるかもしれませんが、必ずあなただけに返事します。
小郡市立小郡中学校 校長 佐々木 啓太

☆また、学校の他に小郡市公共施設で『相談ポスト』が置いている場所は、小郡市図書館、生涯学習センター、小郡市体育館です。

(きりとり線).....

悩みや困ったこと _____ 姓 名 前 _____
相談カード _____
(あなたの秘密は守ります) ※記入されないじやま、裏に書いてください。

昨年度より『コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)』を導入しています

『コミュニティ・スクール』という言葉を知ったことがあると思います。『コミュニティ・スクール』という名称は、法令上の正式名称ではありません。法令上は、『学校運営協議会』という制度があり、この『学校運営協議会』を導入した学校の通称として、『コミュニティ・スクール』という言葉が用いられています。

昨年度から(小郡市内全小・中学校に導入)本校でも、小郡市教育委員会が作成した「小郡市学校運営協議会規則」に則って『コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)』を導入しています。学校教育に対する多様な要請に応え、信頼される開かれた学校づくりを進めるためには、保護者や地域住民のニーズが学校運営に、より迅速かつ的確に反映されることが重要です。そこで、保護者や地域住民が合議制の機関である学校運営協議会を通じて、一定の権限と責任をもって学校運営に参画し、学校・家庭・地域が一体となってより良い教育の実現をめざすという、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりの仕組みとして制度化されました。なお、「小郡市学校運営協議会規則」及び本校本年度の「コミュニティ・スクール推進計画(目的、重点取組、年間計画等)」は小郡中学校のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。また、学校運営協議会で協議された内容等は学校だより等でお伝えしていきます。

